

D. 結論

平成19年12月28日に出された厚生労働省医政局長通知（医政発第1228001号）「医師および医療関係職と事務職員等との間等での役割分担の推進について」には、医師と助産師との役割分担について「医師との緊密な連携・協力関係の下で、正常の経過をたどる妊婦や母子の健康管理や分娩の管理について助産師を積極的に活用する…（省略）」と示された。安全で快適な妊娠・出産の支援のために必要なことは、産科医と助産師の相互理解と協働である。その一つの形として、本ガイドラインは作成された。

また、正常な経過をたどる妊婦や母子の健康管理や分娩の管理に助産師が積極的に取り組むためには、助産師自身のさらなる自己研鑽が必要であるが、同時に助産に関する知識や技術の向上をはかるための卒後研修制度や認定制度の確立も急務である。そして、今後はさらに臨床と教育が連携し、助産師養成数の増加を目指し取り組むことも新たな課題である。

本ガイドラインを活用していただき、妊産褥婦およびその家族に対してより質の高いケアの提供ができることを願うと同時に忌憚のないご意見をいただきたい。

〈参考文献〉

- 1) 日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集・監修：産婦人科診療ガイドライン-産科編2008，日本産科婦人科学会事務局，2008.
- 2) 日本助産師会：助産所業務ガイドライン，日本助産師会，2008.
- 3) 日本看護協会：病院・診療所における助産師の働き方-助産師が自立して助産ケアを行う体制のために-，日本看護協会，2006.
- 4) 日本看護協会：平成20年度助産センターの設置推進プロジェクト答申，平成21年度日本看護協会総会資料，2009.
- 5) 日本産科婦人科学会：産婦人科研修の必修知識2007，日本産科婦人科学会，2007.
- 6) 日本産科婦人科学会編集：産科婦人科用語集・用語解説集 改定第2版，金原出版，2008.
- 7) 日本産婦人科医会編：胎児の評価法-胎児評価による分娩方針の決定-，日本産婦人科医会，2008.
- 8) 荒木 勤：最新産科学 正常編 改定第22版，文光堂，2008.
- 9) 荒木 勤：最新産科学 異常編 改定第21版，文光堂，2008.
- 10) 坂元正一他編：改訂版 プリンシプル産科婦人科学2，メジカルビュー社，1998.
- 11) 和田雅樹：新生児の基本管理マニュアル-出生直後の新生児の扱い方-仮死児，周産期医学，37（1），21-24，2007.
- 12) 主任研究者 岡村州博：厚生労働省科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）「分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医氏の集中化モデル事業」班ホームページ
URL：<http://www.osan-kiki.jp/index.html>
遠藤俊子：「助産師活用システム-助産師外来推進のための諸課題に関する研究-，資料1「助産外来ガイドライン」 URL：<http://www.osan-kiki.jp/researchreport-02.html>